



ジョナサン・ベネディクトの5分で学ぶ父親業 ● その6

12人家族の住む家

一九八〇年に香港に行きました。狭いアパートに大勢が住んでいて、寝るのも交代制だと聞ききました。我が家はそれほど混んではいませんが、大きくない家に12人が住むにはスペース配分が重要です。

1階には、居間として使うLDKの他に、寝室1つと勉強部屋1つ、子ども部屋はみな2階です。屋根は四方が傾斜した造りのため角の限られた空間を上手に使います。

16年前に野尻湖畔の築85年のキャビンに引っ越した時、2階は壁がなく吹きさらしでした。以来、幼児のおもちゃが大きな子のほうに行かないように壁やドアを作りました。でも夜は、それぞれが布団を敷いて「ごろ寝」。背丈も大きくなって隙間も少なくなり、とにかく空いた場所にイワシの缶詰のように寝ています。

ちゃんとしたベッドも置けないため、ふたりの子は寝台列車のカプセルホテルのように庇の下^{ひさし}の三角スペースで寝ます。冬の風の強い晩など、庇の下に風が吹き付け、断熱材がヒューヒュー言うそうです。

トイレは2つが普通でしょうが、うちは1つ。これが問題と思

うでしょうが、実は1日のどの時間帯でも空いている時のほうが長いです。待たされたり、列ができたりもしますが、たいていは使いたい時に使えます。12人家族にもトイレは1つで十分。オバマ新大統領の就任式では200万人もの人手が見込まれ、300人に1つのポータブルトイレがあっただけなことを考えれば何のことはありません。

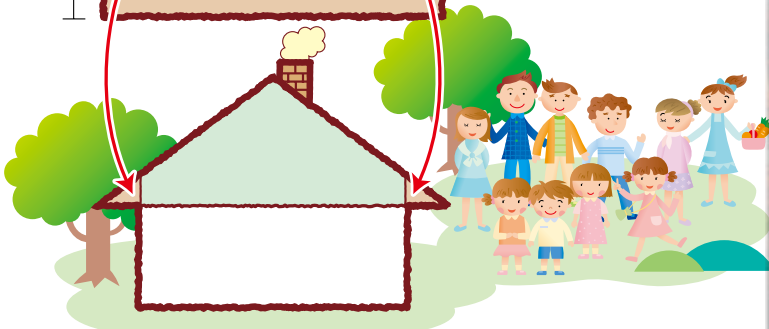
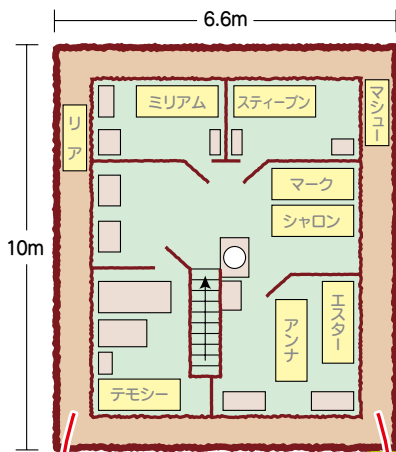
洗濯は、年間365日9キロ用洗濯機で1山から2山洗いますが、妻のベッキキーは気にしません。10人の子ども全員が布オムツを使ったので量は膨大でしたが苦にならないかったです。

食事は日に3回ですから母親は大変。朝は毎日同じで、末っ子(6)を除いてセルフサービス。ランチはサンドイッチやラーメンや残りを各自で。メインの夕食は毎日メニューを考えるのが母親には大変なので、一週間前に考えてまとめ買いをします。買い物は私で作るのは手分けして、ベッキキーが洋風、私が和風と中華専門。大きい子は手伝います。皿洗いやその他の家事は当番制です。

ホームスクールのため、勉強スペースとかなりの量の教科書と参考書が必要でした。ほとんどは勉強部屋に置いてあり、そこに本棚、5つの勉強机、1つのコンピュータデスクがあります。窮屈に感じる子は、食卓や2階で勉強します。幸い、今はオンラインで得られるものが多く、印刷物や本棚があまり必要なくなりました。

私たちが発見した大家族の恵みは、子どもも親も限られたスペースを分け合わねばならないので、わがままを抑え一緒にいることを楽しむようになったことです。完全なプライバシーはトイレにしかないというのは事実ですが。

結婚当初、10人の子持ちになるとは想像しませんでした。考えていたら、住む家、育児、生活、教育費などを心配したでしょう。今では自分たちが受けてきた豊かな恵みに感謝するだけで、家の狭さなど何とも思っていないません。



ベネディクト家の食卓
(現在は、長女ルーシーさん、長男テモシー君を除いた10人で住んでいます。)

文＝ジョナサン・ベネディクト
1956年山口県岩国市生まれ。宣教師2世。
4男6女がいる。長野県在住。
清泉女学院大学講師。
著書「ふたりのために」

